

令和 5 年 4 月 24 日

松山観光バス 株式会社 御中

松山観光バス株式会社 労務管理顧問
運送事業労務コンサルタント
すげの社会保険労務士事務所 菅野 史知

令和 4 年度 松山観光バス株式会社 運輸安全マネジメント実施計画の検証結果について

令和 4 年度もやはり新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けた 1 年となってしまいました。感染者数も概ね 3 か月程度の間隔で上昇・下降を繰り返し、それによって稼働も上下するという過去 2 年間と同じような傾向が見られ、今年度も雇用調整助成金を活用した休業を行いつつ、何とか社員の雇用維持を図ってきた处でありました。さらに弊社でも社員やその家族に感染者や濃厚接触者等が確認され、時期によっては稼働も戻りつつある中で業務そのものに支障をきたす事もあるなど、感染症対策の難しさとその対応方法について考えさせられる 1 年であったかと思います。

又、ウクライナ情勢も収まる気配を見せず世界経済も先行き不透明な中、相変わらずの物価高と燃料高が追い打ちをかけ、輸送経費が大幅に上昇した事も経営面では大きな影響があった事は言うまでもありません。しかしながら、今年 3 月からマスク着用も任意扱いとなり、5 月には感染症の部類が 5 類相当に緩和される事が決定しており、さらに国土交通省では貸切バス運賃の上昇改定の審議が進むなど、今年度はコロナ渦を収束に向かわせる年になる事は間違いなく、追い風ムードの中で稼働も回復していく事が予想されますので、経営的にも令和 5 年度はかなり期待感の持てる 1 年になるのではないのでしょうか。

そのような中、昨年度の運輸安全マネジメントの検証結果ですが、年度当初より陸羽西線の代行バス事業が開始されましたが、通常の貸切運行ではない慣れない業務だったからでしょうか、年度前半にそれに係る車両故障やトラブルなどがあったようでした。その影響もあって物損事故の件数目標を 2 件ほど上回る結果となってしまいました。その中で特に目立った点としては、ここ数年のコロナ渦による稼働の減少で、ドライバーの車両感覚が鈍ってしまった事が原因と思われる物損事故が 2 件発生した事です。大切なお客様を乗せて運行するプロである以上、運転業務に就く機会が少ないから車両感覚を忘れて事故を起こしてしまったというのは言い訳になりません。この問題は他のバス会社などでもみられる傾向ですが、今年度は顧客需要が回復し運行の機会が確実に増える事が予想されますので、鈍ってしまった感覚を取り戻すためにも、今のうちから車両の大きさや構造上の特性を認識させる実技運転指導（特に大型車）を拡充し、安全確実な運行を以ってお客様を迎える事が出来るように準備しておく事が必要です。

事故以外の部分に関してですが、車両故障が4件発生した点も、コロナ渦で稼働が少なかった事による車両の劣化が要因であると考えられます。これもやはり全国的にみられる傾向で、定期的に運行していない車両ほど、特にエンジンや足回りなどの劣化が進みやすく、急なエンジントラブルや運行の中断、さらにはそれが原因となる事故なども考えられますので、日常点検整備を怠らない事はもちろん、しばらく実車運行のない車両に関しても定期的に試運転を行うなどの対策を講じる事、整備管理者や定期点検の委託先などからこまめなチェックを受けるなど、きちんと対策を講じていく必要があるかと思えます。

そういった反面、連続運転違反がなかった事や、例年発生していた冬季間特有の事故が昨年度は発生しなかった事は、ここ数年のマネジメントが機能している結果であると言えますし、特にドラレコ映像を活用したヒヤリ・ハット改善指導等が功を奏しているのではないかと考えております。さらにハード面においても、今年度は3台の車両入れ替え、ドライバーの脳ドック検診や塩害ガード費用の拡充が予定されている事などからも、より一層安全面が強化されるのではないかと期待感を以っている处であります。又、ドライバーとの事務方との連絡体制の迅速化を図るためにラインワークスを導入するなど、IT化を着実に進めている点も評価に値しますし、昨年度は「輸送の安全に関する施策」を作成し、これを基に乗務員と管理者側の遵守事項を視覚化して指導を行った点なども、これからの御社の安全輸送に関する基本的な指針となっていくものではないかと考えております。

先に触れました通り、今年度は全国的に貸切バスの稼働が大幅に回復する事が予想され、それと共に事故やトラブルも多く発生するのではないかと懸念も出ております。昨年中も数件のバス事故が報道され、それと共に安全対策の再確認とそれらを回避するための注意喚起が発せられておりました。まだまだ感染症対策も疎かには出来ませんし、これらを含め、常にお客様に安心と安全を提供できる体制を整えて日々の運行を行っていく姿勢が大事ではないでしょうか。これまでも御社は運輸安全マネジメントにおいて、地域のトップリーダーとしての役割を果たして参った处ですが、今年度はコロナ収束後の新しい貸切バス事業の輸送の安全を考えるスタートの年と捉えて頂き、原点に立ち返ったマネジメントの構築と継続、安全面の向上を図るためITを始めとした最新技術等の導入、社員の意識をコロナ渦の状況から転換させていく事などを念頭に、今年度も事故・トラブル等の撲滅を目指して努力して頂ければと期待しております。